

トマス・クロウ教授講演会

亡命の芸術

ナポレオン以降のジャック＝ルイ・ダヴィッド



Jacques-Louis David, *The Anger of Achilles*, 1819, Kimbell Art Museum

An Art of Exile

Jacques-Louis David after Napoléon

Prof. Thomas Crow

国立国際美術館 講堂

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55 <http://www.nmao.go.jp/>

2014年3月22日 [土] 午後2時より

午後1時30分開場 聴講無料 定員100名・先着順 同時通訳付

※入場整理券の配布はありません

講演者 トマス・クロウ [ニューヨーク大学美術研究所教授]

ディスカッサント 稲賀 繁美 [国際日本文化研究センター教授]

司会 池上 裕子 [神戸大学国際文化学研究所准教授]

主催 神戸大学国際文化学研究所 国立国際美術館 後援 日仏美術学会

本講演は、日本学術振興会による外国人研究者招聘事業として開催します。

お問い合わせ 池上 裕子 ikegami@port.kobe-u.ac.jp



国立国際美術館
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

トマス・クロウ教授は、プリンストン大学、サセックス大学、イェール大学、Getty財団研究所長などを経て、現在ニューヨーク大学美術研究所教授。18世紀のフランス美術に関する著作『Painters and Public Life in Eighteenth-Century Paris』(1985)で学界での評価を確立し、続く『Emulation: Making Artists for Revolutionary France』(1995)において、フランス革命期にジャック＝ルイ・ダヴィッドを始めとする新古典主義の画家たちが、激動する社会といかに切り結んだかを社会史的な視点から鋭く分析して高い評価を得ました。さらに、戦後美術の評論家としても活躍するようになり、『Modern Art in the Common Culture』(1996)がスペイン語やポルトガル語、韓国語にも訳され、名著として読み継がれているほか、今年の秋にはポップ・アート研究の大著『The Long March of Pop: Art, Music, and Design 1930 to 1995』を出版予定です。今回の講演では、ナポレオンの失脚でベルギーに亡命したダヴィッドについて、最新の研究成果を盛り込んだお話をさせていただきます。

